

## ★ ラインナップ ★

春の星空

星空レポート

～この春までの話題をまとめて紹介！～

\* OAO通信 “水星の太陽面通過 インターネット中継成功！！”

星好きの独り言

今回は、3/25に行われたアストロクラブ特別投映会についての報告です。

## ☆ 春の星空 ☆

暖冬といわれた今年の冬は去り、桜舞う季節がやってきました。

春の星空では、「おおぐま座」が北の空高くに昇ってきます。その腰からしっぽのあたりには、七つの星が大きなひしゃくの形に並んだ“北斗七星”があり、北の空に輝く北極星を見つけ出す手助けをしてくれます。

ひしゃくの柄の部分にそって先へ伸ばしていくと、オレンジ色をした1等星、「うしかい座」のアークトゥルス、そして純白の輝き「おとめ座」のスピカを通して、やがて小さな四辺形の並び「からす座」へとたどり着きます。この北の空から南の空まで続く大きなカーブが“春の大曲線”、春の星座探しのポイントです。

もう一つのポイントは、暖かくなって駆け出してきた「しし座」のしっぽに輝く2等星デネボラと、先の二つの1等星アークトゥルスとスピカがつくる三角形。これは“春の大三角”、と

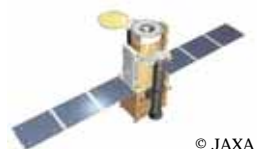
呼ばれています。デネボラから西では、1等星のレグルスなどが“?”マークを裏返した形をつくり、しし座の頭の部分を描いています。このあたりには、この春、0等級ほどの明るさで土星が輝いているので、うまく“?”マークを結べないかも知れませんね。

こんな春の星座たちが満開の星空。春風の吹くなか、のんびりと星空を眺めてみませんか？

## ☆ 星空レポート ☆

～この春までの天文\*星空の話題をまとめて紹介！～

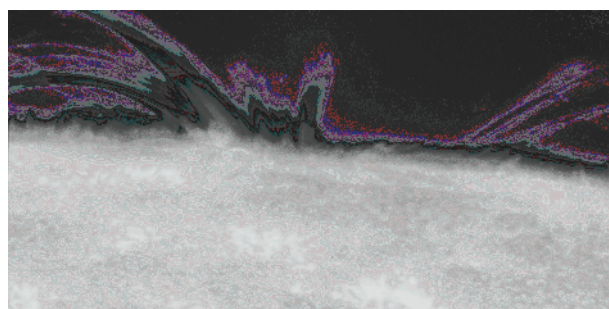
### ■ 「ひので」が見せる新たな太陽の姿！



© JAXA

2006年9月23日 午前6時36分（日本標準時）、鹿児島県の内之浦宇宙空間観測所から太陽観測衛星「ひので(SOLAR-B)」が最後のM-ロケットによって宇宙へ飛び立ちました。「ひのとりに」、「ようこう」に続く日本で3番目の太陽観測衛星「ひので」から、早速、今まで見たこともないような太陽の映像が届いてきました。今後の活躍にも注目です！

右の画像は、黒点が太陽のふちにあるときに、横から「ひので」の可視光望遠鏡がとらえたものです。黒点の周囲からガスが約2万キロメートルの高さまで吹き上げられている様子ははっきりとわかります。（国立天文台 提供）



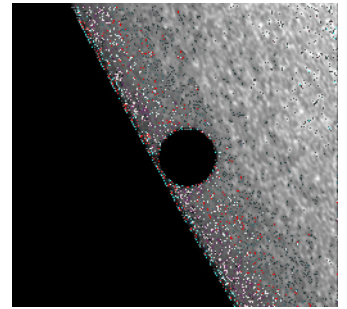
ひのでホームページ <http://hinode.nao.ac.jp/index.shtml>

## ■ 水星の太陽面通過

2006年11月6日早朝、水星の太陽面通過が約3年半ぶりに見られました。水星の太陽面通過は、地球から見ると、水星が真っ黒な点となって太陽面上を横切っていく現象です。この様子は、お隣の国立天文台岡山天体物理観測所の65cmクーデ型太陽望遠鏡で観測されました。(詳しくは下の「OAO通信」のコーナーへ)

また、太陽観測衛星「ひので」によって宇宙からもとらえられました。

次に、日本で水星の太陽面通過が見られるのは2032年。2012年6月には、金星の太陽面通過が起こります。



太陽観測衛星「ひので」が見た水星の太陽面通過 (国立天文台 提供)

## \* OAO通信

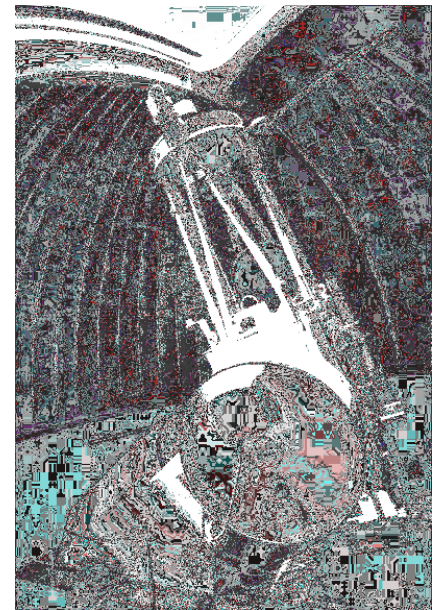
### 水星の太陽面通過 インターネット中継成功！！

太陽系の惑星で太陽に一番近いところを周っている「水星」が、地球から見て太陽の前面を横切る「水星の太陽面通過」という現象が2006年11月9日の朝、起きました。

国立天文台岡山天体物理観測所ではこの現象を、65cmクーデ型太陽望遠鏡を使ってインターネット中継をしました。(協力:ライブ!ユニバース) 今回の中継は、クーデ型太陽望遠鏡でとらえた太陽像をスクリーンに投影し、その投影像をカメラで撮影。10秒毎に写真を撮り貯めて、パラパラ漫画のようにして、インターネット上に公開しました。水星の動きは非常にゆっくりとしているので、こうすると約300倍の速さで現象を見ることができ、明るい太陽像の中を黒い点となって移動する水星がよくわかります。

岡山天体物理観測所のホームページにはインターネット中継で公開したムービーがありますので、ぜひご覧ください。

- ◇ 岡山天体物理観測所 <http://www.oao.nao.ac.jp/>
- ◇ 水星の太陽面通過のネット中継 <http://www.oao.nao.ac.jp/public/event/mercury/>



65cmクーデ型太陽望遠鏡



## ■ マックノート彗星、現わる！

予想をはるかに超えた大彗星が現われ、南半球の夜空を飾りました。

このマックノート彗星(McNaught C/2006 P1)は、2006年8月に、オーストラリアのマックノート(R. H. McNaught)氏によって発見された彗星です。発見当時は17等級と暗い彗星でした。それが、太陽に近づくにつれてどんどん明るくなり、2007年1月13日に太陽に最も近づいた後、南半球の空へ移動して見事な大彗星となって姿を現しました。



Comet McNaught over the Pacific  
ESO Press Photo 05/07 (19 January 2007)  
This image is copyright © ESO. It is released in connection with the ESO press releases and may be used by the media on the condition that the source is clearly indicated in the caption.

© ESO

## ■ 今が見ごろ！ 土星を見よう

しし座で、0等級の明るさで輝く土星が、夕方の空で見やすくなってきています。

太陽系第6番目の惑星・土星の見どころは、やっぱり環(リング)をまとった神秘的な姿。木星や天王星、海王星にも環はありますが、土星の環は小型の望遠鏡でも簡単に見ることができ、その美しさはダントツです。初めて環の存在に気がついたのは、イタリアのガリレオ・ガリレイで1610年のことです。しかし当時、望遠鏡の性能があまり良くなかったため環として認識できず、その後、1655年にC.ホイヘンスが環であることを示しました。

この環、一枚の板のように見えますが、実は無数の氷の粒などからなるたくさんの細いリングの集まり。大きく分けて、A環からG環までの7つがあり、そのうちよく見えるのはA、B、C環の3つです。A環とB環の間には、



© NASA/JPL/Space Science Institute

黒いすき間のように見える部分があり、発見者の名前にちなんで“カッシーニの間隙”と呼ばれています。

現在、土星では、2004年に到着した探査機“カッシーニ”が、土星の周りをまわりながら土星やリング、衛星の観測を行っています。次々と送られてくる詳細な観測データや興味深い画像の数々。その中の一枚が左の画像です。2007年1月19日に撮影されたこの写真は、今まで見たことのないような角度から土星の姿をとらえたものです。

カッシーニ・ホイヘンス ホームページ(英語)

<http://saturn.jpl.nasa.gov/home/index.cfm>

## ■ 西の空、宵の明星

この時期、夕方の西の空にひとときわ明るい星が輝いているのに気がつきませんでしたか？

宵の明星や明けの明星と呼ばれる“金星”が、昨年末から宵の空へ姿を見せはじめ、どんどん高度を上げてきて見やすくなっていきます。その明るさも-4等級というすばらしい輝きで、目をひきます。

今年の夏の終わりまで、宵の明星として輝き続ける金星は、7月12日に-4.5等級の最大光度となります。最大光度の頃には、肉眼で昼間の青空のなかでも見えてしまうほど！青空のなかに浮かぶ金星探しに挑戦してみてください。

2004年5月5日の金星



8cm屈折望遠鏡にて撮影/岡山天文博物館

2004年5月23日の金星



8cm屈折望遠鏡にて撮影/岡山天文博物館

## ☆ 星好きの独り言 ☆

みなさあ～ん、ひさしぶりのは！です。

は！と聞いてピンツときた人は、よっぽどの博物館ツウなひとですね。えっ、そんな人はいないって！？

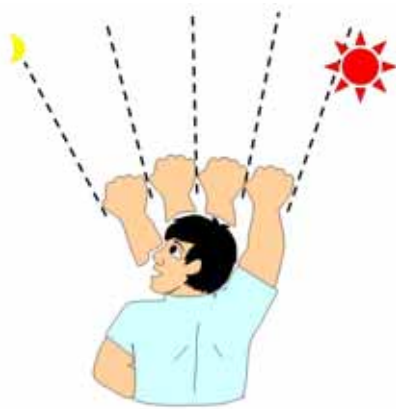
まあ、それはさておき、今回は3月25日(日)のアstroクラブの特別投映会の報告をしちゃいますよ！

アastroクラブのプラネ番組も今回で3作目となり、内容的にもビジュアル的にもグ～ンと完成度を増し、3回の投映で約100人の方に見ていただきました。感謝と感激と達成感で、おいらの小さな(?)胸はいっぱいです。でもこの達成感がくせもので、まるで「燃え尽き症候群」におちいったような感じになっちゃって...

まあ、5回目の投映(1作につき2回投映)ともなればちょっとは慣れて症状も控えめになってるけど、初めての時はひどい症状で、2週間くらいは、ボ～ツとしてたのを今でも憶えてるよ。  
(天然という噂もちらほら聞くけど)

ん、1作につき2回投映ということは...

そう、今回の「たっくん南の島へ行く ～すべての1等星をめぐる旅～」も夏休みにもう1回投映するかもしれないので、見逃した人も待っててくださいね！詳しくは博物館ホームページをチェックしていてね！！



おまけ

本文にもあったけど、昼間に見える金星についてちょっと一言！  
見える時期は7月12日の前後2週間くらいで、金星の探し方は、腕をいっぱいにのばし、こぶし4つぶんを太陽から東にずらして、そのあたりを探すと見つけれよ。見えるといっても、青い空に白い点がポツンと見える感じ。よく晴れた日に挑戦してみてね！

そんじゃあ今回はこのへんで。

(アastroクラブメンバー まるは！)

### < 編集後記 >

気がついたらもう春。ずいぶんご無沙汰してしまいました...

さあ、今春は何に挑戦しようかな...? って考える前に、カヌーに挑戦してきました！ tomo  
片道34時間かけて露天風呂に入ってきました。気温-25度！体は温かいけど髪の毛は湯気が凍って真っ白になりました。そそ、オーロラも見ましたよ。 peg

我が家のブルーベリーがはじめて花を咲かせました。夏号の頃には、美味しい実が...!? Yumi  
いやあ～、今回の方が悩んじゃったよ。題材を探すのってけっこう大変だ、こりゃ。 Maruha!

この博物館通信は、岡山天文博物館が作成しています。次回 夏号は6月ごろ 発行予定です。

岡山天文博物館 浅口市鴨方町本庄 3037-5 TEL・FAX 0865(44)2465 休館日：月曜・祝日の翌日  
博物館ホームページ <http://www.rweb.ne.jp/astro/index.html>